

「けやき並木の新呼吸」～定禅寺通利活用推進事業

受賞機関 仙台市

事業の概要

「定禅寺通」は、仙台市役所や宮城県庁、東北一の繁華街である一番町など、仙台市の中心部に位置し、テレビなどにも度々登場する本市が誇る通りの一つである。この道路は全幅46mの道路で、中央に12mの緑地帯を有し、戦災復興事業によって整備されたものである。緑地帯の両側には直径60cmほどのケヤキが整然と配植され、歩道のケヤキと相まって見事なケヤキ並木を形成しており、さしずめ「緑の回廊」の様相を呈する都会の貴重なオアシス空間となっている。

平成13年度に、道路と沿道の一体的な街づくりの一環として、杜の都のシンボルロードとして大規模リニューアルを行ったが、これを契機に、“憩い”と“潤い”空間の創出や中心市街地の“活力”と“賑わい”を育むことを目的に、杜の都のシンボル・ケヤキ並木を活かしながら、この緑地帯を利用したオープン・カフェやジャズ・コンサートの開催などを、

市民マネジメント組織と行政との協働により社会実験として行ったものである。

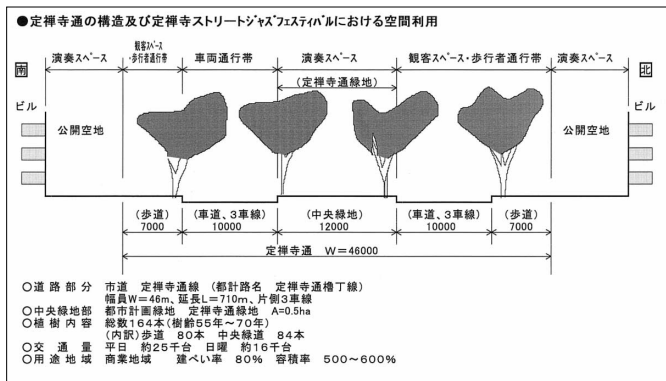
市民マネジメント組織による社会実験

平成14年度に、有識者や市民などからなる「定禅寺通利活用検討委員会」において、この緑地帯の利活用方策や企画・運営方法等が検討され、その提言をもとに、翌年度市民マネジメント組織「ハロー定禅寺村」が立ち上がった。この組織と行政が一体となって、利活用方策の具体化や実施に向けての課題整理・調整等を行い、関係機関の協力も得ながら、次のようなイベントを実施することとなった。

平成15年度に、中央緑地において、4月～6月の土・日にはオープンカフェを、8月には夕涼みライブやストリート・ウェディング、9月には第13回目となる「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」を車道の半断面と両側歩道を使って大々的に開催した。



オープンカフェ



特に、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」は、この区間だけで前年度の約4倍に当たる14万人の観客数を集め、市内全体においても前年の47万人から54万人にへと、年々規模が大きくなっている。

評価と今後の展望

これらのイベントについて市民アンケートを行ったところ、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」は、9割近くの市民からも大好評の回答を得たところである。

今後は、この実験で得られた数々の意見や評価の検証を基に、仙台市の新たな魅力として定着させるための、市民マネジメント組織のサポートを行ってゆくものである。



平成14年度 第12回ジャズフェスティバル
（歩道の歩行区間確保困難、観客の車道への転落の危険）



平成15年度 第13回ジャズフェスティバル
（安全・安心でゆったり鑑賞）